C. 定量分析

企業名	サンプル株式会社	製造業

（「平成19年度版：中小企業の財務指標：比率分析データ編」から選択した業界名」
□ 部分とコメント部分のみ入力してください。この部分以外は自動出力されます

データ消去

戦略項目	No.	財務指標	2011年3月期	2012年3月期(A)	業界＊全体(B)	乖離度(A)/(B)×100	判断基準	静態評価	動態評価	第Ⅰステップ 3段階分類 A・B・C選択	第Ⅱステップ（第Ⅰステップをベースに乖離度に基づく5段階分類） ※乖離度判定(P・N)	財務指標別 5・4・3・2・1	乖離度「P」とする目安「P」ポジティブ		乖離度「N」とする目安「N」：ネガティブ		5段階分類	戦略項目別評価の留意点（各財務指標の重要度・業種によるバラツキ・絶対値の大きさ等） コメント（判定の根拠・その他）
収益性	1	総資本経常利益率（%）			2.10	270.2	H	a	↑	A	－	4	300%以上		30%以下		○5	**利益を生み出す構造を分析する** ・総資本経常利益率と売上高経常利益率の2つの指標を重視する。 なお、数値が小さいので 乖離率は高めになるが、絶対水準にも留意する。 ・売上高総利益率、売上高販管比率は、業種によるバラツキが大きいが、水準のほか、利益を増やすために その向上・圧縮を図っているか（動態）も見る。
	2	売上高総利益率（%）			35.70	55.5	H	c	→	C	－	2	150%以上		20%以下		◉4	
	3	売上高経常利益率（%）			1.70	246.2	H	a	↑	A	－	4	300%以上		30%以下		○3	コメント 収益性に関しては、特に問題はありません。 特に重視する項目である総資本経常利益率と売上高経常利益率は、業界平均を大きく上回る水準となっていますが、売上高総利益率が業界平均値を下回っています。
	4	売上高販管費比率（%）			33.50	46.1	L	a	→	A	－	4	20%以下		150%以上		○2	
																	○1	
安全性	5	流動比率（%）			145.60	91.1	H	c	↓	B	－	3	150%以上		60%以下		○5	**資金的な側面における安全度を分析する** ・流動比率は、130%は確保したい水準。一般的に飲食業は低い。 ・自己資本比率は、業種を問わず20%以上は確保必要。 ・固定長期適合比率は、100%以下を確保する必要があるが、投資動向にも着目する。 ・当座比率は、100%は確保したいが、業種によるバラツキが大きい。 ・固定比率は、一般的に100%以下が健全となるが、固定長期適合比率100%以下であれば許容範囲。
	6	当座比率（%）			104.90	105.3	H	b	↓	B	－	3	150%以上		50%以下		◉4	
	7	自己資本比率（%）			15.90	195.3	H	a	↓	A	－	4	200%以上		30%以下		○3	コメント 安全性に関する各項目が業界平均値を上回っており、特に問題はありません。 ただ、前期との比較（動態評価）を見た場合、流動比率、当座比率、自己資本比率が業界平均値をやや下回る水準となっていることから注意が必要です。
	8	固定比率（%）			199.70	31.3	L	a	→	A	P	5	50%以下		130%以上		○2	
	9	固定長期適合率（%）			70.20	70.4	L	a	→	A	－	4	50%以下		130%以上		○1	
生産性	10	従業員一人当たり売上高（千円）			29,394	201.6	H	a	↑	A	P	5	150%以上		50%以下		○5	**生産要素の有効利用度を分析する** ・一人当たり売上高は、卸売・不動産で高くなり、一人当たり付加価値額は、不動産で高めになる点に留意する。 ・一人当たり機械装備額は、運輸・製造業で高いなど業種による特殊性が反映されることがあるので注意。
	11	従業員一人当たり付加価値額（千円）			8,014	118.5	H	b	↑	B	－	3	150%以上		50%以下		◉4	
	12	従業員一人当たり機械装備額（千円）			1,934	27.4	H	c	↑	B	－	3	150%以上		50%以下		○3	コメント 生産性に関する数値は、問題はありません。
																	○2	
																	○1	

網かけは重点評価項目

※該当すればチェック（レ）を選択

第Ⅰステップ（3段階分類）

判断基準	静態評価レベル	動態評価レベル	
[H]一般的に数値が高いほうが望ましい項目	[a] 当社数値＞業界平均値 ： 120%以上	[↑] 前期比良化 ： 105%以上	A
	[b] 当社数値≒業界平均値 ： 90%～120%	[→] 前期比同水準：95%～105%	B
[L]一般的に数値が低いほうが望ましい項目	[c] 当社数値＜業界平均値 ： 90%未満	[↓] 前期比悪化 ：95%未満	C

第Ⅱステップ（5段階分類）

A	乖離度「P」と判断した場合	5
	上記以外	4
B	―	3
C	下記以外	2
	乖離度「N」と判断した場合	1

次ページ
比率分析（評価判定シート）へ

戦略項目	No.	財務指標	2011年3月期	2012年3月期(A)	業界＊全体(B)	乖離度(A)/(B)×100	判断基準	静態評価	動態評価	第Ⅰステップ 3段階分類 A・B・C選択	第Ⅱステップ（第Ⅰステップをベースに乖離度に基づく5段階分類） ※乖離度判定(P・N)	財務指標別 5・4・3・2・1	乖離度「P」とする目安 「P」ポジティブ		乖離度「N」とする目安 「N」：ネガティブ		5段階分類	戦略項目別評価の留意点（各財務指標の重要度・業種によるバラツキ・絶対値の大きさ等） コメント（判定の根拠・その他）
効率性	13	売上債権回転期間（日）			51.30	319.4	L	c	↓	C	N	1	80%以下		130%以上		○5 ○4 ○3 ◉2 ○1	**資産の有効活用度を分析する** ・売掛債権回転期間は、飲食・小売・不動産で短かく、棚卸資産回転期間は、情報通信・運輸・飲食・サービスで短いなど業種によるバラツキがあるため動態にも着目する。 ・買入債務回転期間は、長いほどキャッシュフローを生み出すが、業種によるバラツキがあるため注意必要。
	14	棚卸資産回転期間（日）			13.80	222.3	L	c	↓	C	N	1	70%以下		130%以上			コメント 効率性に関する全体評価は、やや劣ります。 買入債務回転日数が業界平均値を大きく上回り、優良な基準となっているものの、売上債権回転日数及び棚卸資産回転日数が業界水準を大きく下回る水準となっています。 売掛金の増加、棚卸資産の在庫管理について注意が必要です。
	15	買入債務回転期間（日）			27.80	385.2	H	a	↑	A	P	5	180%以上		40%以下			
成長性	16	対前年比売上高伸び率（%）			5.10	232.2	H	a	#DIV/0!	A	P	5	200%以上		30%以下		○5 ○4 ○3 ○2 ○1	**成長持続性の度合いを分析する** ・対前年比売上高伸び率は、企業の成長度合を見るが、業界を巡る経営環境も考慮する。 ・対前年比経常利益伸び率、従業員一人当たり付加価値伸び率は、質的な成長を伴っているかを見る。 また、3つの指標がバランスよく成長しているかに着目する。
	17	対前年比経常利益伸び率（%）			11.00	330.7	H	a	#DIV/0!	A	P	5	200%以上		30%以下			コメント 成長性に関する項目についても問題ありません。 前年度との比較（動態評価）が不明ですが、静態評価において業界平均値と比較して大きく上回っており、優良な企業です。
	18	従業員一人当たり付加価値伸び率（%）			3.20	437.9	H	a	#DIV/0!	A	P	5	200%以上		30%以下			
資金管理	19	CFインタレストカバレッジレシオ（倍）			4.10	1078.2	H	a	↑	A	P	5	300%以上		0%以下		○5 ○4 ◉3 ○2 ○1	**資金を生み出す力や債務償還能力等を分析する** ・営業CF対有利子負債比率は、営業CFに対し、有利子負債が過大ではないかに着目する。 ・営業CF対投資比率は、100%以上は確保したい。前向きな投資も大事、投資動向にも着目する。 ・借入金依存度は、装置産業は高めになる。総資産が少ない業種も高い。50%以内が望ましい。 ・CFインタレストカバレッジレシオは、高いほど余裕度がある。300%以上はほしい。
	20	営業CF対有利子負債比率（%）			5.00	65.6	H	c	↑	C	−	2	300%以上		0%以下			コメント 借入金依存度、CFインタレストカバレッジレシオについては、問題ありませんが、営業CF対投資CF比率が悪化してことに加えて、営業CF対有利子負債比率も業界平均値を下回っています。この状況が一時的な状況であれば、問題はないと思われますが、継続的に続くようであれば資金繰りと有利子負債について見直す必要がありそうです。
	21	営業CF対投資CF比率（%）			102.60	−193.0	H	c	↓	C	N	1	150%以上		0%以下			
	22	借入金依存度（%）			61.50	22.8	L	a	↑	A	P	5	50%以下		150%以上			

網かけは重点評価項目

※該当すればチェック

第Ⅰステップ（3段階分類）

判断基準	静態評価レベル	動態評価レベル	
[H]一般的に数値が高いほうが望ましい項目	[a] 当社数値＞業界平均値 ： 120%以上	[↑] 前期比良化 ： 105%以上	A
	[b] 当社数値≒業界平均値 ： 90%～120%	[→] 前期比同水準：95%～105%	B
[L]一般的に数値が低いほうが望ましい項	[c] 当社数値＜業界平均値 ： 90%未満	[↓] 前期比悪化 ：95%未満	C

第Ⅱステップ（5段階分類）

A	乖離度「P」と判断した場合	5
	上記以外	4
B	―	3
C	下記以外	2
	乖離度「N」と判断した場合	1

「比率分析」評価判定シート（戦略項目別に第Ⅱステップ評価の該当する部分をチェッ

第Ⅰステップ評価	評価レベル「A」		評価レベル「B」	評価レベル「C」	
第Ⅱステップ評価	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】
【収益性】	□	☑	□	□	□
【安全性】	□	☑	□	□	□
【生産性】	□	☑	□	□	□
【効率性】	□	□	□	☑	□
【成長性】	☑	□	□	□	□
【資金管理】	□	□	☑	□	□
第Ⅲステップ評価	○5	◉4	○3	○2	○1